補 章 少子化の国際比較

1 世界の人口と出生率の推移

国際連合の推計によると、世界の人口は1950年には約25億人であったが、その後人口は増加を 続け、2003年には約63億人に達している。2050年には89億人に達する見通しである。

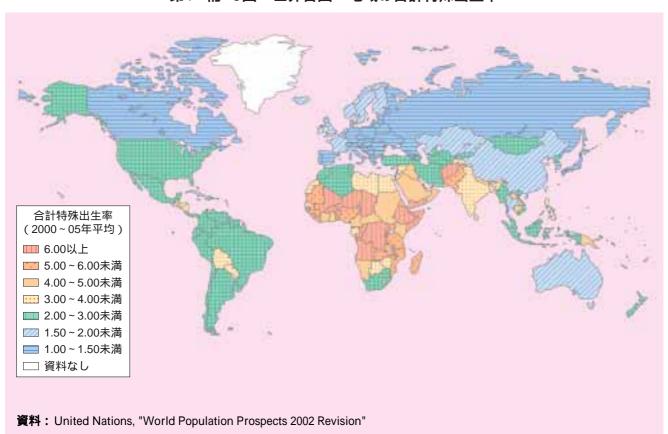
世界平均の合計特殊出生率は、1950年代前半には5の水準であったが、その後低下傾向に入り、 2000年までのデータを基にした現在の推計値では2.69と、過去50年間で最も低い水準となってい る。

2 世界の地域別の出生率

世界の合計特殊出生率を地域区分別にみると、アフリカが4.91と最も高く、次いでアジア(2.55) ラテンアメリカ (2.53) の順となっており、ヨーロッパ (1.38) や北アメリカ (2.05) では、人口 置き換え水準を下回っている。

3 先進国の出生率の動向

1960年代以降、先進国の合計特殊出生率は全体的に低下する傾向にあり、「少産少子」の時代 から、「第2の人口転換」の時代に至っている。



第1-補-3図 世界各国・地域の合計特殊出生率

4 アジアにおける国際比較

0.00

1970

(昭和45)

1975

(50)

1980

(55)

アジアでも合計特殊出生率が2.00を下回っている国が2割程度存在する。その中で、経済成長 が著しい国々では合計特殊出生率の低下が急激であり、タイ1.80、台湾1.24、シンガポール1.26、 韓国1.19、香港0.94と、日本よりも低い国がみられる。

6.00 合計特殊出生率(最新年次) 国・地域 合計特殊出生率 年次 5.00 日 本 2003年 1.29 韓国 韓国 2003年 1.19 香港 2003年 0.94 4.00 合計特殊出生率 タイ 2002年 1.80 シンガポール 2003年 1.26 台湾 2003年 1.24 3.00 日本♦ 2.00 シンガポール 1.00

第1 - 補 - 8図 アジアの主な国・地域における合計特殊出生率の動き

資料: United Nations"Demographic Yearbook", ただし、日本は厚生労働省「人口動態統計」、韓国は韓国統計庁資料。 香港の1975年以降は香港統計局資料、タイの1995年以降はタイ王国統計局資料。シンガポールはシンガポール 統計局資料、台湾は内政部資料。タイの2003年については、2002年のデータ

1990

(平成2)

1995

(7)

2000

(12)

2003

(15)

(年)

1985

(60)